

# 一般的な植栽帯の維持管理のポイント

## 植物の生育環境

植物は自分で動くことができません。良質な緑化をするためには、まず、植物にとって住み心地のよい環境をつくるのが大切です。

○光、水、温度などの気候条件や土の状態などの土壌条件が植物の生育に大きくかかわっています。

★光と吸い上げた水や養分で光合成を行う

★温度変化を感じて花芽をつける など

○植物によって好む環境は異なります

★日当たりを好む ↔ 日陰を好む

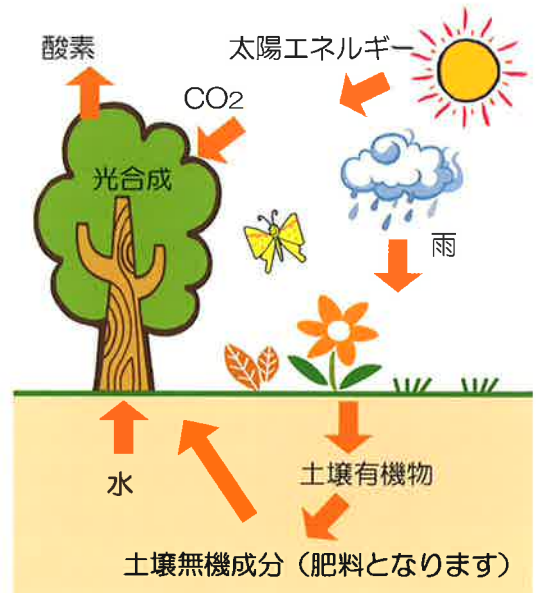
★寒さが苦手 ↔ 暑さが苦手 など

○土は植物にとって「衣・食・住」そのもの。植物に適した土壌づくりを心掛けましょう

★一定の厚さと広がり確保する

★物理的、化学的に改良する

【植物の生育環境】



## 植栽のタイプ

樹木を植えるときには、その樹木にどんな効果を期待するのかを考え、それに見合った高さや形などの特色をもった樹種を選ぶことが大切です。

- ・環境調整
- ・景観の向上
- ・自然環境の保全
- ・緑陰の形成
- ・防災力の向上 など

植栽の効果



大きさ	特色	性質
・中高木	・花が咲く	・日当たりを好む
・低木	・実がなる	・潮風に強い
・地被	・落葉する など	・水辺で育つ など

植物の特色

## 植物を健康に育てよう

植物は気象の変化や病気等により、急に状態が悪くなることがあります。被害が大きくなるためにも、**植物の状態をよく観察し**、異常が見つかったら速やかに対応しましょう。

### ■水やり

○植物の状態をよく見て植物に合わせて適宜水やりをしましょう。特に水やりの必要性があるのは次のような場合です。

- ➡ 保水力に乏しい植栽帯
- ➡ 高架下など雨水による水分補給が期待できない植栽帯
- ➡ 猛暑が長く続いた場合や移植直後の樹木 (夏季の水やりは朝夕の涼しいときに)

## ■除草

○雑草は景観を悪くするだけでなく、幼苗や低木を覆い、日照不足を招きます。また、土壌の養分を奪ってしまうなどの害もあるため、適宜除去しましょう。特に背丈の低い植物を植えることが多い屋上緑化では配慮が必要です。

➡ **マルチング**（良好な育成環境をつくるため、樹木の根元を敷きわらなどで覆うこと）を施したり、**芝生の刈り込み回数**を増やすことなどで雑草を抑えることができます。

○除草には以下の方法があります。

【人力除草】景観上優れており、周囲の環境にも影響がないなど利点は多いですが、手間がかかります。

【刈取り除草】地上部のみ刈払機等の機械器具で除草する方法。根が残るため再度発生します。

【薬剤散布】使用上の留意点を厳守し、周辺環境への影響を考慮します。



雑草に覆われた植栽帯

## ■剪定

○剪定は樹木の健全な生長や景観的に整えるため以外に、台風などのときの風折れや枝折れを防ぐ役割もあります。樹種や目的にあわせた適切な剪定を行いましょう。

➡ 樹木の形は一度崩れるとなかなか戻りません。剪定する際は樹種に応じた**目標樹形を設定**しましょう。（自然の形を大切にする、目線を遮らないなど）

○剪定には整姿剪定と整枝剪定があります。目的に応じて使い分けましょう。

【整姿剪定】風害による倒木や病虫害を防除すること等を目的として行う剪定。

【整枝剪定】主に枝を整え樹形の骨格をつくることを目的として行う剪定。

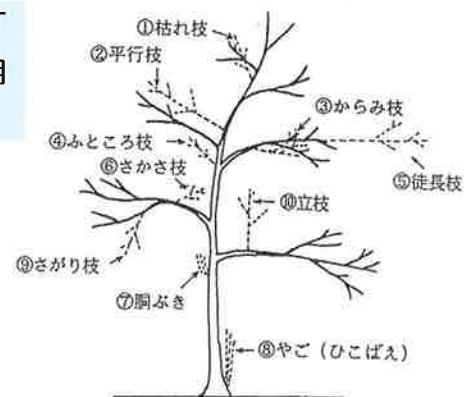
○剪定は適期に行いましょう。中高木は毎年行わなくても構いません。

➡ **落葉樹**：新緑が出揃った**7～8月頃**と落葉した**11～3月頃**

➡ **常緑樹**：生長が休止する**5～6月頃**と**9～10月頃**

➡ **針葉樹**：真冬を避けた**10～11月頃**と春先

➡ **花木**：**花芽の分化前**に作業する



図のような不要枝を取り除いてから整姿剪定や整枝剪定を行う  
（出典：『街路樹管理マニュアル』）

（花木の剪定時期の例）

☆アジサイ 夏から秋に花芽がつくので、花後すぐに、花の下に葉を2～3枚つけた位置で剪定します。

☆サツキ 夏に花芽がつくので、花後すぐに刈り込んで形を整えます。

☆ハナミズキ 夏に花芽がつくので、花後すぐか冬季に花芽がついていない徒長枝や細い枝を取り除きます。



アジサイの剪定は花後すぐに行う

## ■マルチング

- 植物の根元に敷きわらなどを敷いて、乾燥防止や保湿、雑草の繁殖防止などを行います。
- 風による飛散、タバコなどの投げ捨てによる火災、降雨による流亡に注意します。



マルチングの資材には敷きわら、バークチップ、雑草防止シートなどがあります。

## ■施肥

- 年に1～2回程度、植物の状態に合わせて適切な肥料を適量施します。
- ➡施肥には年間に必要な養分を施すために**12～2月頃に行う元肥**と樹勢回復等のために**6～9月に行う追肥**があります。
- ➡花木や果樹は年2回程度（元肥と花実後のお礼肥）の施肥を行います。

## ■病虫害防除

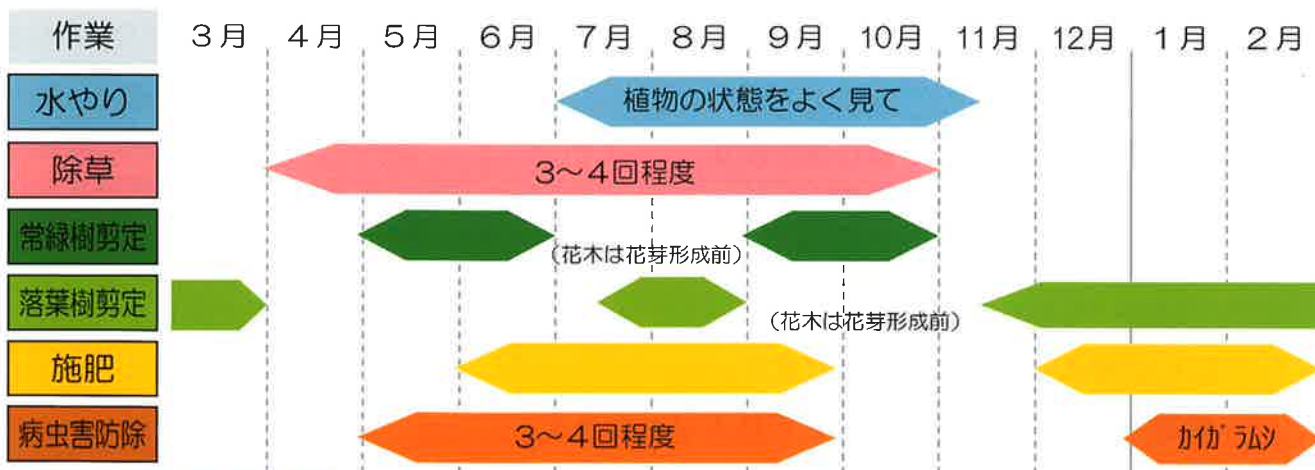
- 病虫害が発生したら除去に努めましょう。
- ➡病気が発生したら「伝染源となる罹病した枝葉等を集めて焼却する」「発生初期に殺菌剤を散布する」「被害株を抜き取る」「汚染された場所の土壌を消毒する」などの処置を施します。
- ➡病虫害は目に見えない、または、見つけにくいことが多いので、葉、枝、枝先、幹と分けて状態をよく観察し判断します。
- 病害が蔓延してしまった場合などには薬剤に頼らざるを得ません。ただし、薬剤の使用には注意が必要です。
- ➡利用者等への影響は避けられないので、**利用者に害を及ぼさないよう、使用上の注意をよく読んで利用しましょう。**



ツバキ属の葉を食べるチャドクガ。毒毛がささると激しいかゆみが残ります。

## 管理スケジュール例

植栽場所の環境や品種によってスケジュールは変わります。



## こんな事例があります



住友金属工業(株)の敷地の緑化



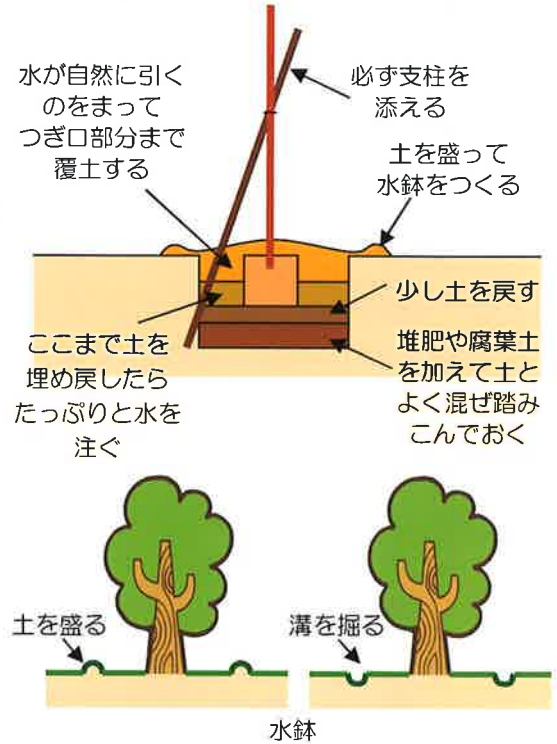
住吉神社のあじさい園

# Q & A

こんなときはどうするの???

## Q 苗木の植栽時に注意することはありますか??

- 根鉢にあった穴を掘る。
- 植栽の適期に植え付ける。
- 植栽後は水をたっぷりやる（水ぎめを行う など）
- 活着するために適切な支柱を設置する。
- 植栽後はマルチングをする。



## Q 水やりの手間を減らす方法がありますか??

- 水鉢をつくったり、マルチングを施すなどにより乾燥を防ぎます。
- 乾燥に強い植物を使用すると多少水切れしても枯死までには至らずにすみます。ただし、全く水やりの必要がないというわけではないので注意しましょう。

## Q 水不足かどうか分かりますか??

- 樹木が吸水不良になると、右のようなサインが出ます。ただし、これは、排水不良の場合も起こるので、土壤の乾燥と地下部分での加湿の両方が考えられることに注意してください。

- ・新芽が出てから、極端に葉がしおれてきた。
- ・落葉樹で葉が丸まって落ち始めた。
- ・針葉樹で枝葉が部分的に白身を帯びてきた。
- ・先枯れ（樹木の先端や枝先だけが枯れる）してきた。

## Q 病虫害の発生を抑える方法がありますか??

- 剪定をすることで通風、採光の改善を行います。
- 植栽密度が過密にならないようにしましょう。
- 落ち葉、雑草、枯枝は取り除きます
- 樹木の休眠期にイオウ合剤、木酢液などの殺虫剤を散布します。

## Q 支柱は使い続けてもいいのですか??

- 支柱は、永続的なものではありません。樹木の生長や支柱の老朽化に応じて、更新もしくは撤去を行う必要があります。

## Q 管理について相談できる場所はありますか??

- 兵庫県では次のような支援を行っています。詳しくは下記までお問い合わせください。  
 緑の相談所（明石公園 花と緑のまちづくりセンター内）  
 花と緑の専門家バンク事業（各県民局土木事務所まちづくり（建築）課内みどりのパトロール隊が受付）

詳しくは下記までお問い合わせください

- (財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター  
 TEL : 078-918-2405 FAX : 078-919-5186  
<http://www.hyogo-park.or.jp/midori/>  
 〒673-0847 明石市明石公園1番27号